

中部「共進化」フォーラム

～ウェルビーイングを体感できる地域循環共生圏を目指して～

森林の関係人口創出による里山整備の推進と 受援力・地域防災力の強化

令和8年3月3日

NPO法人フォレスト工房もくり 副理事長

フォレストデザイン 代表

余頃 友康

自己紹介

フォレストデザインについて ~森林サービス業を展開~

1. 森林整備

人工林等の森林整備、特殊伐採

2. 里山資源活用

伐採で出た木材の有効利用。

薪、コースター、ログファイヤー
の販売など



3. 森林環境教育

幼稚園から大学生・社会人への
様々な年齢層への森林環境教育・
技術指導など



災害支援団体での人材育成

自身の職業をフォレストデザイナーと命名



① 林業的な森林管理、野生生物保護を目的とする森林管理など目的に応じて森づくりが行える人

木材を生産する森づくりをするのか、生物の多様性を高めたり象徴的な生き物を保護をする森づくりなのか、その目的に応じて適切な管理方法を提案し実施します。

② 森と人との関わりをデザインする人

人と森との距離が離れて久しいですが、自然体験や環境教育の場、癒しの場づくり等を通じて森に触れる機会を増やします。

また、山菜や木の実、キノコ類などの食料や、薪などの燃料など、森林の恵みを積極的に暮らしに取り入れられるような機会を創出していきます。

③ 森林（自然）を使って、地域活性化に寄与する人

森林をハブとして地元と来訪者の交流を生んだり、特産品の開発など行い、地域活性化に寄与します。

【資格】

森林インストラクター

林業技士（林業経営部門）

林業作業士（フォレストワーカー）※1

森林整備業務専門技術者（長野県） など

※1 林業作業士を名乗るには、車両系建設機械などの十数個の資格が必要

自己紹介

NPO法人フォレスト工房もくりについて

NPO法人フォレスト工房もくりは、「森林と暮らす仕組みをつくる」を合い言葉に、川上から川下(山・森から街)までをつなげ、新たなニーズを掘り起こし、森を守りながら、また同時に、森の恵みを届ける活動を展開しています。

長野県飯山市の里山をフィールドに、木遣い人材育成プロジェクトを信州大学と協働して実施しています。



木遣い人材育成プロジェクト



里山の保全

今年度実施した新たな活動の紹介

同時解決の手法を用い、地域の森林において、指導者をつけて参加者のチェーンソー等のスキルアップを行いました。具体的には、指導者が伐倒した樹木をチェーンソーを使って枝払いや玉切りをしてもらったり、バックホーを操縦して山道の整地など行いました。



1. 消防士のチェーンソースキルアップの例

【地域の困りごと】

- ・ 裏山を線的（水路や山道沿い）にはまだ管理できているが、面的には難しい。
- ・ 今後線的にも管理が難しくなると予想される。
- ・ 細く過密に成長した森林は土砂災害が発生しやすくなる。
- ・ 整備の行き届かない森は野生動物の楽園（2023年には地区内でクマが5頭捕獲された）。

【消防士の困りごと】

- ・ 災害時に支障木が発生すると対応しなければならないが、日常的にトレーニングする場所や機会がほとんどない。
- ・ 斜面（条件の悪い場所）でチェーンソーを扱う機会がほとんどない。

NPOや災害支援団体がコーディネート

- ・ 地域のフィールド（里山）を所有者と調整して提供
- ・ 指導者を手配：技術指導、安全管理、森づくりの方針
- ・ スキルアップを希望する消防署とのコーディネート



課題解決へ

解決に向かう課題

【地域の困りごと】

- ・ 裏山を線的（水路や山道沿い）にはまだ管理できているが、面的には難しい。
- ・ 今後線的にも管理が難しくなると考えられる。

→面的な里山の整備

→地域外の人による里山の整備（森林の関係人口）

- ・ 細く過密に成長した森林は土砂災害が発生しやすくなる。
- 森林の持つ多面的機能の発揮、地域防災力の向上。

- ・ 整備の行き届かない森は野生動物の楽園。
- 野生動物の出没抑止を期待。



【消防士の困りごと】

- ・ 災害時、支障木が発生すると対応しなければならないが、トレーニングする場所や機会が少ない。
 - ・ 斜面でチェーンソーを扱う機会がほとんどない。
- チェーンソーを扱う技術の向上。
- 災害発生時の速やかな対応。
- 地域防災力の向上。

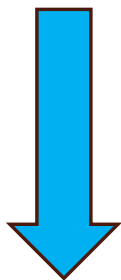
2. 災害支援に関心を持つ人たちのチェーンソー およびバックホー スキルアップの例

【地域の困りごと】

山頂に続く山道が崩れていたり、倒木があるが、地域のおてんま（共同作業）では、技術的・体力的に対応できない。

【災害支援に関心を持つ人たちの困りごと】

- ・ 平時にスキルアップする場所がない。
- ・ 災害が発生した際、自身がどれだけ活躍（活動）できるか分からない。



NPOや災害支援団体がコーディネート

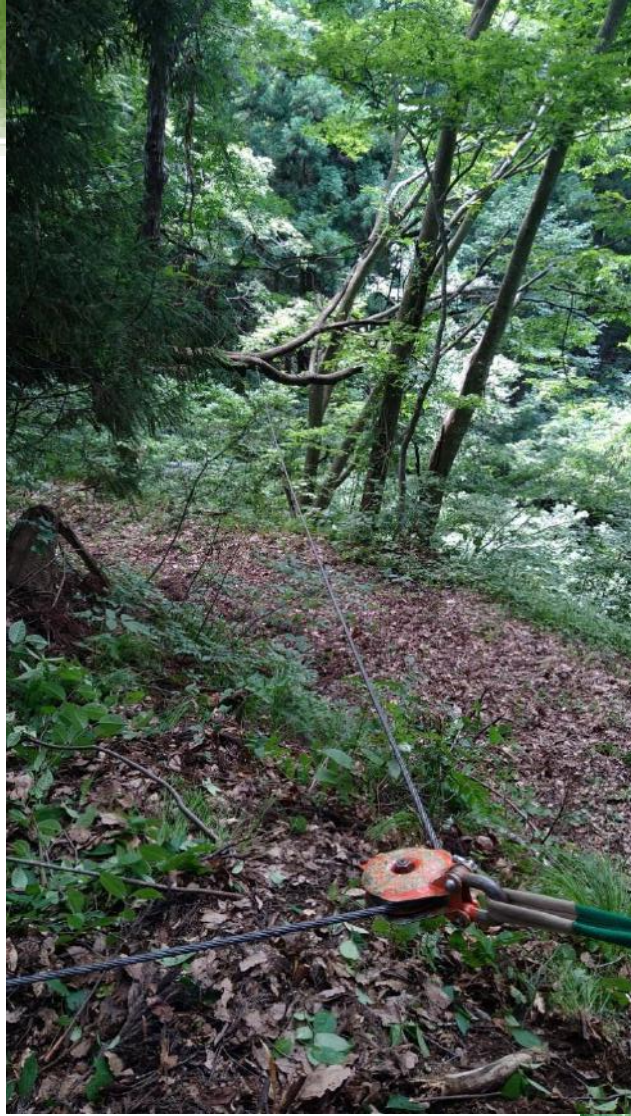
- ・ 地域のフィールド（里山）を所有者と調整して提供
- ・ 指導者を手配：技術指導、安全管理、森づくりの方針
- ・ スキルアップを希望する人を募集

【地域の困りごと】

→山道の補修、倒木が除去され、安全に歩けるようになった。

【災害支援に関心を持つ人たちの困りごと】

→チェーンソーやバックホーのスキルアップができた。





私が考える 地域共進化のキーワード

1. 地域の受援力
2. 森林の関係人口（森林を活用した関係人口）の創出
3. 来訪者のメリットを、来訪者および地域住民が意識する。
4. 複数団体の共働によるコーディネート
5. 活動中の技術指導、安全管理のできる人材の確保、育成。
6. 森林と人とのつなぎ直し。また、つなぎ直しのできる人材の育成。
7. 地域共進化に関わる人材の役割の明確化と予算措置。

1. 地域の受援力

→助けて欲しい！と地元から発信しないと始まらない。

2. 森林の関係人口（森林を活用した関係人口）の創出

→森林を有し、かつ受入を希望する地域に地区外の人が入れる仕組みづくりが必要。

→都市住民が地域に流入する潮流づくり。

3. 来訪者のメリットを、来訪者および地域住民が意識する。

→受入側は一方的に助けられているわけではない！

来訪者には、機械類の取り扱いをはじめ森林・自然と関わる知識や技術を学んだり、農山村（国土）が地域住民によってどのように守られているかを経験し、学ぶ機会としてとらえてもらう。また来訪者は、様々な森林の恵みや癒やし効果も体験できる。

4. 複数団体の共働によるコーディネート

→ミッションを共有できる複数の団体が連携することにより、速やかに課題解決が可能。

5. 活動中の技術指導、安全管理のできる人材の確保、育成。
→ただ単に人を森に入れば良いというものでは無い。指導者を付けることが必須。チェーンソーの取扱などの技術指導や安全管理、森づくりの方針など林業や森林内での活動に通じた人材が求められる。

6. 森林と人とのつなぎ直し。また、つなぎ直しできる人材の育成。
→現代社会では、森林と人との繋がりが希薄になっている。時代に応じた形で繋がりを持ち続けることが大切。森林との新たな関わりをつくれる人材の育成が必要。

7. 地域共進化に関わる人材の役割の明確化と予算措置。
→各地で工夫し進められている先進的な取り組みについては、関係するプレイヤーの役割、動きを把握し、必要に応じて予算付けをする。

